

リフトを使った介助を体験する子どもたち  
(大津市・富士見小)



## 介護職のやりがい 小学校から

県人材センター 出前講座続ける

同センターは草津市と長浜市にあり、福祉業界への就職希望者と事業所の橋渡しをしている。県内では、団塊の世代が75歳以上になる25年に2万4,600人の介護人材が必要となるが、13年時点で約1

10年後に県内で3千人以上不足するとされる介護人材の確保に向けて、「県介護・福祉人材センター」が、児童に福祉の仕事を知ってもらおうと2015年度から小学校で出前講座を開いている。28日には大津市の富士見小で開催し、子どもたちが介助体験などを行った。

万6千人しかおらず、自然増加が見込まれる約5,200人を除く約3,400人の人材確保が求められるという。出前講座は昨年6月から始め、県教委を通

じて希望校を募っている。富士見小は4校目で、この日は4年生約60人がリフトを使って車いすから人を持ち上げて移動させる介助などの説明を受けた。児

童らは実際にリフトでの移動を体験し、井手口海君(10)は「持ち上げられるとき怖いと思ったけど、『上げま

すよ』と声を掛けても大丈夫だったので怖くなくなった」と心配りの大切さを学んでいた。同センターは「介護の仕事のやりがいを伝えてほしい」と話し、来年度以降も続けていくという。(田代真也)